
テイルズ・オブ・フリーダム

成太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

テイルズ・オブ・フリーダム

【Nコード】

N6676F

【作者名】

成太

【あらすじ】

小説でテイルズシリーズの新作をかきます！

プロローグ

闇と光が入り交じる世界

「ミモンテ・カルバーチョ」この世界は魔物と人が住む世界

そしてノイエ共和国 ムーブ帝国 アスピア連合国 が世界のバランスを保っている

そしてこの三代大国はそれぞれ

「フォルム」という古代文明が作り出した超機関を所有し各国は繁栄を続けていた…

レイブン

「ワァー帝国が！」

「ヤメテエー」

「殺せ！共和国の民を殺すのだ！」

その光景は地獄だった

「父さん母さん！」

「うう…ミシエル…お前は逃げろ…」

「父さん？うはあ〜」

ミモンテ西暦104年ノイエ共和国とムーブ帝国の戦い

この戦いから7年物語の始まりである

チュンチュン

ノイム共和国領サジ村

「うっうう〜朝かあ…」

ガバツ

一人の少年がベッドから腰をあげた

「お兄ちゃん！朝だよ！」

ガチャツ

妹がドアを開けて元気良く部屋に入る

「おはようポルカ！」

少年は窓を見ながらあいさつをした

「あつ珍しくない起きてる！やっぱり緊張してるんだ!？」

ポルカが男の子に聞く

「そりゃ…まあ一応レイブンの発動の日だからな！」

「そっだよね…」

ドンドン

話しの途中で誰かがドアをノックする

「ミシエル！ミシエルはおるか？」

「長老だ！ポルカ！」

「うん！わかった」

ポルカは玄関に向かう

「さてえ着替えるか…」

ミシエルは着替えを始める

「ポルカ…ミシエルは起きとるか？」

「ええ起きてますよ！今着替えてると思いますけど！さすがに緊張してる見たいですよ！」

「当たり前じゃ！今日はレイブン発動の日！緊張くらいしてもらはないと！」

「待たせたな！ばあさん！」

ガチャツ

着替えを終えたミシエルが今に出て来る

「誰がばあさんじゃ！ミシエル！」

「そつだよお兄ちゃん！長老に向かって！」

「でっまだ時間あるだろ？」

「うぬっ！お前さんレイブン発動の時を待って旅に出るらしいなあ
！」

「えっ本当なの？」

「ああ…ポルカには後で言おうと思ったんだけど…」

「なんで？なんですぐ言ってくれないの？」

「悪かったな…でも」

「でもじゃないよ…お兄ちゃんの馬鹿！」

バタバタドタン

ポルカは部屋を出る

「ポルカ！」

「やっぱりサルサとアルの仇を取りに行くんじゃない…」

「ああ…出来るか分からないけど…」

「分かった…時間までにわしの家に来るんじゃないぞ！」

「わかってる…」

「それじゃあのミシエル…」

ガチャッ

長老が部屋を出る

「父さん母さん…」

昼時

「良し行くか！」

ミシエルは立ち上がり外に出たて長老の家に歩き始めた

「おっミシエル！今日だって！頑張れよ！」

「おっ！」

「ミシエル兄ちゃん頑張つて！」

「任せろ！」

長老宅

ガチャツ「うぬ来たなミシエル！」

「ああ！」

「ここに座れ！」

ミシエルは座布団に座る

ヒュー

「そろそろじゃな……」

長老がミシエルの前に座る

「聖霊よ彼に力をまた彼の身を守る力を授けた前……」

長老が呪文を唱え始める

「クッ…」

ミシエルの右腕に紋章が浮かびあがる

「うぬっ雷のレイブンじゃな！雷はめったにいないからの！」

「雷のレイブン…」

「うぬ！今日はもう良いぞ！もう旅立つのである！」

「世話になったな…ポルカを頼む！」

「うぬっ！行ってこい！」

ガチャッ

ミシエルは長老の家を出る！

旅立ち

「ミシエルどうだった？」

村のみんなが集まっていた

「雷だ！」

「雷が珍しいな！」

「おめでとう！」

「十年ぶりだねこの村からレイブン使いが出たのも！」

「ああビートいらいだね」

「兄ちゃん今何してんだ？」

「俺噂で聞いた事あるぞ今帝国で軍人やってるって…」

「！？帝国で？」

「まあ噂だけど…」

「それよりもう旅立つんだろ？」

「うん！」

「頑張れよ！」

ミシエルは自宅に向かい歩きだす

ガチャツ

部屋に入るとポルカが椅子に座っている

「ポルカ…あのな…」

「お兄ちゃん…これ！」

カチャ

ポルカの腕には二本のソードを持っている

「ポルカ…」

「安物だけど…加治屋さんで買ったの…」

「ありがとう！」

カチャカチャ

ミシエルは両脇にツインソードを付ける

「良いかこれから長老に世話になるんだ！」

「うんわかってる！心配しないで！」

「ポルカ…絶対帰って来るから！」

「いつてらっしやい！」

「行ってきます！」

ガチャッ

ミシエルは部屋を出る！そして村から旅だつた！

「さて…とりあえず…北に行こう！ピコット村を目指そう！」

ミシエルは北に向かい歩き始めた

歩き初めてすこしたつた時

「誰か…誰か助けて！」

前から男数人に終われる女の子が走ってくる

「なっなんだ!？」

ズザァー

ミシエルの前で女の子が転ぶ

「だつ大丈夫かあ!？チイツ」

ミシエルは女の子を自分の後ろに隠す

「へへえ兄ちゃん邪魔しない方がよいぜ！」

「チイツ骸の鼠か？」

「おっ俺達の事知ってるんだな！じゃつといたどいた！」

「たくつ！出発そうそう…だかこんな所目の当たりにしたんじゃどけないでしょ！」

カチャカチャ

ミシエルは剣を抜く

「やろうつてのか！？俺達と？」

「だつたら？」

「なめやがって！」

四人が一斉に飛び掛かる

「よつと！クッ」

カンカン

「初めてのレイブン！イクゼ！」

ミシエルは紋章を左手で擦る

バチバチ

剣に電気が帯びる

「ハァー」

カンツズサー

「ヒイツこいつレイブン使いだ！逃げる！」

四人は逃げる

「おとと行きやがれ！」

カチャカチャ

「おい！大丈夫か？」

ミシエルは女の子に声をかける

「あっはい！ありがとうございます！」

「こんな所一人で歩いてたらあぶねえぞ！」

「ピコット村に行く途中に行くか？」

「えっ良いのですか？」

「女の子一人危ない思いさせるわけにはいかねえからよ！」

「あっありがとございます！あのおくお名前は？」

「ミシエル！ミシエル・クロラ！」

「私はグラベス！グラベス・コルトです！」

「グラベスか！よろしく！」

「はい！ミシエル！」

正体

「それにしてもなんで骸の鼠なんかに？」

「道を聞こうとそしたらあの人たちが突然……」

「それはわかった！でも武器も持たずに旅？」

「えっええ……」

「町の外は魔物がうじゃうじゃしてるのに？」

「はい！一応レイブンを持ってるので……」

「あんたもか…なんのレイブんだ？」

「氷です！」

「ふう〜んんでなんで旅を？」

「えっえつと〜人を探してて……」

「お前もか……」

「ミシエルもなの？」

「まあな！それにしてもこの世界は……」

「えっどうしたの？」

「いやあなんでもない…」

「ふうんなら良いけど」

「そういえばお前共和国の人間か？」

「えっー応帝国の…」

「じゃあビート・クロラって奴しってるか？」

「えっ親衛隊隊長の事？」

「そいつの名前ビート・クロラか？」

「えっええそうよ…」

「やっぱり…馬鹿兄貴…」

「兄貴…クロラ…あなたビートの弟？」

「ビート…あんた知り合いか？」

「えっいや知り合いじゃないけど…」

「そっかあいつそんな地位の人間なんだな…おっ着いたぞ！」

ノイム共和国領ピコット村

「その二人所属の国は？」

「ミシエル・クロラ共和国領サジ村です！これ所村証です！」

「うむ！お前は？」

「えっと…」

「彼女俺の向かいのコルトさんの家の娘なんです！さっき骸の鼠に終われてる時に取られて…」

「まあ骸の鼠ならしょうがない入れ！」
キー

二人は門をくぐる

「あぶねえ……」

「ありがとうございます！」

「おう！今日は宿に行こう！」

「そうですねあつても私ゼニー……」

「たっく俺がだすから行くぞ！」

「はい！」

旅宿ミルラー

「いらっしゃい！」

「部屋を借りたい！シングル二つ！」

「シングル二つで良いんですね！300ゼニーになります！」

「はいよー！」

チャラチャラ

「じゃ二階の奥の105と106です！」

次の日

「ありがとうございます！」

宿を出る

「さてえ…どうするか…お前は人捜すんだろ！？」

「えっええ…！」

「じゃここでお別れだな！じゃあな！」

「あっちよつとあの…！」

「うんっ何だよ？」

「私一人じゃ見つからないかも…！」

「ああ？なんで？」

「ここにいるかもわからないし…出来たらまだ一緒に」

「たくつ…わかったよ！着いてこい！」

「はっはい！」

二人は旅に必要な道具を買い集めピコット村を出た

「次はどこに？」

「東に言ってミラー砦に行こうと思う」

「ミラー砦に？あそこは…」

「まだ帝国と燻ってるらしいからな」

「それでも行くんですか？」

「ああ！お前は良いんだぞ別に！」

「私も行きます！」

「じゃ行こう！ここから一日くらいで着くから！」

二人は歩き出した

「見つけましたよ姫…まさか共和国の男と…至急王に連絡！親衛隊

を呼び寄せるんだ！」

崖の上から二人を見ている男達

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6676f/>

テイルズ・オブ・フリーダム

2010年10月9日00時07分発行